

…… (高根町)

北杜移住のきっかけは、一目ぼれ。

先日の講演会でこんな話をしたのだが、実際こちらに来てみると、ここがいかに素晴らしい地であるかがよくわかる。僕の場合は体を休めることと、これまでの仕事をまとめることが移住目的だったので、この地は終の棲家としてなおさら魅力的に映る。ただ、子供はそれなりの心配をするようだ。

東京の屋敷を処分してこちらに移り住むことを二人の子供に告げたところ、長男が強く反対した。理由は、「お父さんたちが生活できなくなった時、東京からそちらへ行って看病するのは無理。かといって、自分の性格からお父さんたちをほっておくことはできない」ということだった。北杜を終の棲家と決めても、家族特に子供たちとの距離の取り方が難しい。

僕の専門とする在宅ホスピスケアには、『患者と家族で一人の病人』という大原則がある。その哲学に則り、相談外来では患者と家族の関係を詳しく伺うことにしている。北杜移住を温かく受け容れる子供の場合、強い反対があり親子関係がぎくしゃくしている場合、「子供は関係ない」と言って子供を蚊帳の外に置く場合などなど、親子関係はまさに千差万別である。ただはっきりしているのは、自分たちが老い、人の手を借りないと生きていけない現実が迫っていることだ。老いや死という Serious な問題を今のうちに、子供と突き詰めて話し合わなければならない。それを怠れば、「お父さん。二人とも歳なんだから、お母さんと一緒に東京へ戻ったら？」と冷たく言われる恐れがある。

『この地で老いを迎え、人生を終えたい』という希望を持つ人は少なくない。その夢を実現するためには、身近な人、とくに家族の同意は不可欠だ。将来、この地が最期まで豊かな生を全うするのにふさわしい場所となれば、子供たちは我々の夢、希望を理解してくれるだろう。そのためにも、より成熟した地域づくりに取り組まなければならない。

老いや死は目をつむって避けて通りたいが、そうはいかない。僕の場合、『北杜は終の棲家。この地での最期をやり豊かなものにしたい』ということ念頭においてこの地に移住してきたのだが、その目的達成のためには子供たちの理解だけではなく、その他多くの問題が存在する。

『それらの問題をどうすれば解決することができるか』

今の僕の課題であるが、楽しいチャレンジでもある。八ヶ岳ふるさと倶楽部や北杜の地域の皆さまと一緒にこの問題に取り組むことができれば幸いだ。

◎ イベント報告

☆9/17 援農 かぼちゃの収穫 …… (長坂町)

2021 年度ふるさと倶楽部事務局の任務より開放されて (!?) 6 月の梅の収穫以降、久しぶりの行事参加となりました。台風到来直前辛うじてお天気に恵まれました。太くて硬いつるに足をとられながら分け入って、ハロウィンかぼちゃの収穫・運びに汗を流しました。総勢 10 人で、500~700 個程(??)収穫できたでしょうか。お土産に坊ちゃんかぼちゃとねぎをもらい、充実した午前中を終了しました。

☆9/28 飯盛山ハイキング …… (大泉町)

今年ふるさと倶楽部に入会し、今回初めてイベントに参加させて頂きました。飯盛山は以前より登ってみたい山だったので楽しみにしていました。獅子岩での高山植物の観察ではガイドの佐藤さんの丁寧な説明があり、色々新たな名前や由来などを知ることが出来ました。飯盛山に登るまでは天候も思わしくなかったのですが、皆さんの願いが叶ったのか頂上寸前には霧も消え晴



れ渡り、綺麗な景色を見ることが出来て感動しました。運営委員の方のスムーズな進行でとても楽しいイベントとなりました。

☆9/29 ともしび会 …… (小淵沢町)

久しぶりの「ともしび会」-歌うっていいなあ

9 月 29 日、2 年半ぶりの開催となった「ともしび会」です。今回はコロナ禍と会場の関係から限定 10 人“満席”！でした。会場はずっと続けてきた「ロッジ詩遊館」の食堂で、屋根裏が直に見える素敵な所。「定員に遠慮した」人もいました。ピアノ伴奏で「ともし灯」「遠い世界に」「もみじ」など、6 曲を歌い終わって「歌うってやっぱりいいなあ」がみんなの感想。今後の運営の話し合いもしました。次回は 11 月 24 日(木) 予定です。

◎ イベント情報

- 11/12 青木ヶ原樹海ウォーク②/樹海の中を探索
- 11/18 援農・ゆずの収穫/柚子の産地・富士川町(お土産付き)
- 11/19 ゆるリヨガ②/自分のペースでゆったりと
- 11/22 葦崎大村美術館/15 周年企画展(女性画家)などを鑑賞
- 11/24 ともしび会③/歌と喫茶とおしゃべり会
- 12/1 キノコ雑談/キノコってなんだ? その不思議を覗く